

件名 : [REDACTED]

孔番 : H27-B-1

深度 108.00m ~ 126.00m

[REDACTED]



件名 :

孔番 : H27-B-1

深度 126.00m ~ 140.00m



H27-B-2

余白

ボーリング柱状図

調査名	[REDACTED]	ボーリングNo.	[REDACTED]
事業・工事名	[REDACTED]		1

ボーリング名	H27-B-2	調査位置	X:344.180, Y:1092.324	北緯	35° 45' 19.13"
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	2015年5月25日～2015年7月24日	東経	136° 1' 1.87"
調査業者名	[REDACTED]	主任技師	[REDACTED]	現代人	[REDACTED]
コ定者	[REDACTED]	ア者	[REDACTED]	ボーリング責任者	[REDACTED]
孔口標高	20.11 m	角	180° 上 90° 下 0°	方	北 270° 西 180° 南 90° 東 115.1
総掘削長	160.00 m	度	45.0°	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°
使用機種	エンジン	試験機	ハンマー 落下用具	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値～深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)
													N	値										
	19.62	0.70		コア欠如					0.00～0.70m: 試掘でコンクリートが分布することを確認している。コア採取は実施しなかった。															
1				黒					0.70～1.00m: グリ石															
2				盛土	灰黄褐				1.00～4.10m: 径0.25～2mmの中粒砂～極粗粒砂主体。淘汰は概ね良好である。ルーズで、径10～50mmの花崗岩類、黒色砂岩の角礫を含む。															
3																								
4	17.21	4.10		コア欠如	にぶい黄橙				4.10～5.83m: スライム 凝混じりシルト質粗粒砂、灰黄褐色を呈する砂混じり腐植質シルト、砂混じりシルト、黒褐色を呈する腐植質シルトからなる。 所々、径7cm以下の花崗岩類、黒色砂岩の角礫を含む。全所にルーズである。															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
														(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)															
		15.99	5.83	コア欠如	にぶい黄橙					5.83~7.00m: 砂混じりシルト質粗粒砂主体で、6.80~7.00mは礫質粗粒砂からなる。																				
		15.04	7.17	盛土	にぶい黄 灰					7.00~7.12m: 合板が分布する。 7.12~7.17m: 径8cmの花崗岩の角礫を含む。 7.17~7.41m: スライム 砂混じりシルトからなる。軟質。																				
				コア欠如	にぶい黄橙					7.41~8.53m: スライム 径10cm以下の花崗岩の亜角~角礫からなる。コアの形状をなしていない。基質部は流出している。																				
				灰褐	にぶい褐					8.11~8.20m: スライム ルーズなシルト質礫からなる。																				
				褐灰						8.53~9.70m: スライム 砂・礫混じりシルトからなる。軟質。 下部は植物片が混じる。																				
										9.70~9.80m: スライム 径8cmの花崗岩の礫からなる。 9.80~10.42m: スライム 砂・礫混じりシルト~礫混じり砂からなる。軟質。植物片混じる。礫は径3cm以下の花崗岩類の角礫からなる。																				

標 尺 (m)	標 高 度 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コ ア 採 取 率 ← (%) 最大コ ア長 ← m R Q D L [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) 測定月 日	試験		原 位 直 接 試 験 (孔内水 圧等)	室 内 試 験	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) /孔壁保 護	コ ア チ ュー プ /ピ ット	給 水 量 (L/分)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)				
													(N 値) 値	(N 値 ~ 深 度) 図													
11				コア欠如	褐灰 灰白 明黄褐 褐灰 にぶい橙 褐灰 にぶい褐				10.42~10.70m: スライム 砂・礫混じりシルト~粘土からなる。 軟質。薬剤がコア表面に付着してい る。 10.70~11.00m: スライム 砂・礫混じりシルトからなる。軟質。 11.00~11.30m: スライム 径8cm以下の花崗岩類の礫。基質部は 流出している。 11.30~11.58m: スライム 廣補混じりシルト質砂からなる。ル ーズである。 11.58~12.00m: スライム 礫混じり粗粒砂からなる。ルーズで、 径2cm以下の花崗岩類の角礫を含む。																		
12		11.39 12.33		砂礫	褐 黄褐				12.00~12.33m: スライム 径6cm以下の花崗岩類の礫からなる。 基質部は流出している。 12.33~12.79m: 砂礫 礫率70~80%でクサリ礫を多く含む。 やや硬質。礫種は花崗岩と一部ア ブライトで、礫径は2~100mm。最大 径200mmの礫が認められる。垂角礫が 主体。 12.68~12.79m: 付近にマンガン濃集部 が認められる。 12.79~13.00m: スライム 礫混じり粗粒砂からなり、礫率5~10 %でクサリ礫を含む。礫種は花崗岩 岩で礫径は2~10mm。垂角礫が主体。 ルーズである。 13.00~13.18m: スライム 径4cm以下の花崗岩類の角礫からなる。 13.18~13.53m: スライム 砂・礫混じりシルトからなる。軟質 である。 13.32~13.45m: 間にはぶい橙色の径2c m以下の角礫を20%程度含む灰黄褐色 シルトからなる。 13.53~160.00m: 花崗岩 13.53~30.10m: CL 径さ「D」主体で、0~30°の割れ目 が多い。全体に風化し、一部の割れ 目沿いには砂状化が進む。 13.91m: 幅4mmで傾斜15°の石英脈が 認められる。																		
13		11.07 12.79		コア欠如	褐灰 黄褐				13.00~13.18m: スライム 径4cm以下の花崗岩類の角礫からなる。 13.18~13.53m: スライム 砂・礫混じりシルトからなる。軟質 である。 13.32~13.45m: 間にはぶい橙色の径2c m以下の角礫を20%程度含む灰黄褐色 シルトからなる。 13.53~160.00m: 花崗岩 13.53~30.10m: CL 径さ「D」主体で、0~30°の割れ目 が多い。全体に風化し、一部の割れ 目沿いには砂状化が進む。 13.91m: 幅4mmで傾斜15°の石英脈が 認められる。																		
14		10.54 13.53		花崗斑岩	にぶい橙 にぶい黄橙				13.53~160.00m: 花崗岩 13.53~30.10m: CL 径さ「D」主体で、0~30°の割れ目 が多い。全体に風化し、一部の割れ 目沿いには砂状化が進む。 13.91m: 幅4mmで傾斜15°の石英脈が 認められる。 14.55~14.68m: 割れ目沿いにマン ガン濃集部が認められる。一部(14.55 ~14.63m)で土砂化が生じている。 14.89~15.09m: スライム 14.89~15.00m: 間には砂混じりシルトか らなる。15.00~15.09m: 間には砂混じり 礫からなる。																		
		9.58 14.89		コア欠 如					14.89~15.09m: スライム 14.89~15.00m: 間には砂混じりシルトか らなる。15.00~15.09m: 間には砂混じり 礫からなる。																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 ← (m) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図		原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN · MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)	
														N 値	図												
	9.44	15.09																									
			コア欠部 にふい 黄緑																								
16				明礬灰						15.62~19.80m : 所々、割れ目に沿ったマンガン濃集部が見られる。																	
17				花崗斑岩						16.50~16.51m : 25° の割れ目に沿って緑泥石が分布する。																	
										17.16m以深は上位に比べ割れ目がやや少なくなる。																	
18				明礬灰						17.57~17.64m : 35~40° の割れ目に沿って緑泥石が分布する。																	
										18.20~18.25m : 20° の割れ目に沿って黄褐色酸化が見られる。																	
										18.59m : 10° の割れ目に幅1cm程度の褐色の砂状部を挟む。																	
19				明礬灰						19.59~19.80m : 10mm程度の間隔で割れ目が分布し、マンガンと石英を伴う。																	
										19.70m以深は風化が進み軟質化する。																	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 R Q D [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験				原位置試験 (孔内水深)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
															N	(N)	値	図															
		21				Dg	IVg				20.25m : 30° の割れ目に幅1~5mmの黄灰色砂状部を挟む。				0																		
		22				Vg	IVg		δ		20.90m : 5° の割れ目沿いに幅約10mm砂状化を呈する。																						
		23				Cg	IVg				21.67m : 0° の割れ目に幅1mmの暗灰色粘土を挟む。上詰りの幅10mmは淡黄褐色を呈する。																						
		24				Bg	IIg			2	21.79~26.82m : 径さ「D」が主体であるが、径さ「D」も含み異物が交互に出現する。割れ目沿いに風化で砂状化する部分が多い。																						
		24				Cg	IVg				21.90m : 径10mmの石英固結が80° の割れ目で切断される。80° の割れ目は1本ではなく、分岐しており、分岐したそれぞれの割れ目は不連続である。高角度割れ目には細粒部が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。系統的な割れ目も存在しない。																						
		24				Vg	IVg				22.10~22.50m : 径さ「B」で硬質。																						
		23				Dg	IVg				23.22m : 10° の割れ目に幅5mmで黄灰色のやや硬質な砂を挟む。																						
		24				Cg	IVg			γ	23.52m・30° と23.82m・20° の各割れ目に幅1mmのやや硬質な灰褐色粘土脈を挟む。																						
		24				Cg	IVg				23.88m : 25° の割れ目に幅5mmの黒灰色シルト質砂を挟む。																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 ← cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)									
														(N 値)	(図)																				
		26	花崗斑岩		明褐灰		Cg	γ	2	25.41m : 20° 割れ目沿いに径0.5~1mと微細な雲母 (セリサイト) が偏出している。	0 50 100			0 10 20 30 40 50																					
		27								26.84m : 74° の割れ目は交差する5~10° の割れ目を止めている場合と横断する場合がある。割れ目には細粒部が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。高角度割れ目と系統的な割れ目も存在しない。25.80mの高角度割れ目と交差する低角度割れ目には、ずれは認められない。																			26.82m以深は径さ「D」が主体となる。	27.04~27.90m : 割れ目面にマンガンが付着する。	11 (11)	7 (7)			
		28								Dg																			δ	27.91m : 20° で幅1mmの石英脈が交差する85° の割れ目を横断する。また、27.88mの低角度の潜在割れ目も85° の割れ目を横断する。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	28.02m以深、10mm間隔の風化した割れ目が発達し、片状~塊状化している。割れ目沿いに風化して砂状化することが多い。	28.74~28.94m : 割れ目に沿った風化・変質が現れる。	28.55m : 25° の割れ目に幅10mmの硬質な黄灰色シルト質砂を挟在する。	9 (9)	3 (3)
		29								Vg																			3	29.19m : 50° の割れ目に幅3mmの灰白色粘土を挟在する。	4 (4)				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験		室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)													
																(N 値 ~ 深度) 図	() 値																						
		31			明礬灰	Dg					30.10~30.82m: D 粗ね径10mm以下に砕けている。風化で割れ目沿いに砂状化が拡大している。径5~30mmの硬さ「D」「C」岩片が多く残留し、硬質な砂状部を呈する。基質は砂状部が主体であるが、灰白色粘土化部も散在している。原岩組織や上部の割れ目は残留している。																												
					にぶい黄橙	Dg					30.82~31.15m: CL 割れ目沿いに砂状化することが多い。																												
					にぶい橙	Eg	vs	cg			●31.15~31.66m: 礫砂部 31.15~31.24m: 粘土混じり岩片状部 (H) 上端20°で直線的、下端15~28°で滑曲して連続。一部粘土化した径5~10mmの岩片と岩片間の粘土~厚1~2mmの粘土細脈からなる。にぶい黄橙色を呈する。幅80~90mm。 31.24~31.28m: 粘土質礫状部 (H) 上端15~28°で滑曲して、下端38°で波打って連続。径2~3mmの石英粒、径5~10mmの大半が粘土化した岩片を計20~30%含む。やや軟質。灰黄褐色を呈する。幅20~30mm。 31.28~31.29m: 硬直り粘土状部 (Hc-2) 傾斜38°で上端は波打って、下端は直線的に連続。径2~3mmの石英粒を10~20%含む。やや軟質。灰黄褐色を呈する。幅5~10mm。 31.29~31.66m: 粘土混じり岩片状部 (H) 上端38°で直線的に、下端43°で波打って連続。径5~20mmの硬さ「G」主体（他に粘土化、硬さ「D」「E」含む）の岩片と岩片間の粘土からなる。にぶい橙色を呈する。 31.78~34.37m: D 風化で割れ目沿いに砂状化が拡大する。原岩組織は残留するが、割れ目は消滅するか、しかつているものが多い。所々に幅1~3mmの白色軟質粘土脈を挟む。 31.91~31.96m: 25~30°の割れ目に軟質な幅1~3mmの褐色粘土を挟む。 32.45~32.59m: 8~48°の割れ目沿いに灰白色粘土を挟む。粘土は一部絹目状に分布する。 33.00~33.25m: 粘土化が進み、原岩組織は不明瞭となる。 33.35~33.40m: 硬さ「D」の岩片主体。 33.60m: 5°で幅1mmの軟質な赤灰色粘土脈を挟む。 33.77m: 7°で幅5~8mmのマンガン鉱床部が脈状に分布する。 33.79~33.87m: 硬さ「D」の岩片主体。 33.96m以深は原岩組織が不明瞭な硬質な砂状部主体。割れ目の一部は残留するが、消滅しているものが多い。 33.97m: 25°の割れ目に幅2~4mmの褐色粘土を挟む。																												
					花崗斑岩	Dg																																	
					明礬灰	Eg																																	
					浅黄	Dg																																	
					にぶい褐	Dg					●34.37~34.49m: 礫砂部 34.37m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜13°で上端は直線的、下端は波打って連続。径7mmの石英粒をわずかに(5%以下)含む。軟質。軟質な粘土は75°のせん断面と交差し、2mmみかけ右ズレに変位して切られている。マンガン鉱床を伴う。黒褐色を呈する。幅2~6mm。 34.37~34.49m: 粘土質礫状部 (H) 上端13°で波打って、下端20°で直線的に連続。径2~3mmの石英粒、径5~10mmの粘土化~硬さ「U」岩片を計30%程度含む。浅黄~明赤灰色を呈する。幅90mm。 34.48~35.13m: CL 34.59m: 29°と34.67m: 50°の割れ目は68°で幅1mmのマンガン脈、一部石英脈を止めている。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。																												

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N 値 ~ 深度) 図		原位置試験 (孔内水圧等)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	給排 (給圧 (kN・MPa) / 排水 (rpm))	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)										
															N 値	深度																			
36				明礬灰	花崗斑岩	Cg	Vg	cg	3		<p>●35.36~35.46m: 破砕部 35.36~35.39m: 粘土混じり岩片状~粘土質岩片状部 (Hj) 上端やや不明瞭で47°で波打って、下端47°で1箇所小さく湾曲するが、これ以外は直線的に連続。径2~5mmの石英粒。径3~5mmの粘土化岩片があるが、岩片の粘土化が進むため程度は不明瞭。灰黄色を呈する。幅2.5mm。 35.39~35.40m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜47°で上下端とも直線的に連続する。上端の一部は不明瞭。径1~2mmの石英粒を10%含む。軟質。灰白~灰褐色を呈する。幅12~15mm。 35.40~35.46m: 粘土混じり~粘土質岩片状部 (Hj) 上端47°で直線的に、下端20~35°で湾曲して連続。径2~3mmの石英粒、径5mmの粘土化岩片からなる。上端側の一部は縫隙中に石英が多く露出し、マンガン結晶も作ら。灰黄~褐灰色を呈する。幅40~45mm。 35.46~35.68m: D 上下を破砕部に囲まれ粘土化が進んでいる。 ●35.68~35.72m: 破砕部 35.68~35.72m: 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端27°の褐色軟質粘土で波打って、下端20°で不明瞭ながら波打って連続。径3~5mmの粘土化岩片主体。明褐色を呈する。幅35~50mm。 35.72~35.72m: 粘土質礫状部 (Hc) 上端20°で波打って、下端12°で直線的に連続。径1~2mmの石英粒を20%程度含む。やや軟質。淡黄色を呈する。幅10mm。 35.72m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜12°で上下端とも直線的に連続。石英粒。岩片を殆んど含まない (5%以下)。軟質。灰黄褐色を呈する。幅1~2mm。 35.68~35.92m: D 上下を破砕部に囲まれ、粘土化が進んでいる。 ●35.92~35.95m: 破砕部 35.92m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜35°で上下端とも小さく波打って膨縮しながら連続。石英粒。岩片は殆んど含まない (5%以下)。やや硬質。灰オリーブ色を呈する。幅1~5mm。 35.92~35.95m: 硬質砂状~粘土質礫状部 (Hc) 上端35°、下端45°でいずれも小さく波打って連続。径1~2mmの石英粒、径2~5mmの粘土化岩片を20~30%含む。やや硬質。上位のHc-1の粘土と平行方向に幅1mm以下の灰赤色粘土細帯が散在分布。灰白色を呈する。幅20mm。 35.95~36.76m: D 36.05m以降は粘土化が進み原岩組織は消滅している。 36.05m以降は割れ目、原岩組織ともに残留する。 36.60~36.70m: マンガン結晶が著しい。 36.76~37.12m: Cl 割れ目沿いに砂状化する部分もある。 37.12~37.60m: Cl 岩片は程いが (径さ [G])、一部の割れ目は幅1~3mmで薄く砂状化する。 37.60~38.05m: Cl 割れ目沿いに幅10mm程度で風化が進行している。 38.05~38.46m: Cl 岩片は硬質で割れ目が少ないが、割れ目には粘土や砂を挟む。 38.46~39.78m: Cl 38.60~39.69m: 径さ [D] ない [E] で、上端側は砂状化している。 39.78~40.23m: D 原岩組織と割れ目は残留。一部の割れ目沿いに幅5~10mmで砂状化。</p>	CL'																							
37															Dg	Vg	cg	3			D'														
38															Bg	Vg	cg	3				CL'													
39															Cg	Vg	cg	3																	
															Dg	Vg	cg	3																	
															Eg	Vg	cg	3																	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位貫試験 (孔内水深 取)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ピット	給圧 (kN · MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)				
															(0)	(10)	(20)	(30)	(40)												(50)			
41			+	花崗斑岩	明褐色	E ₈					40.23~41.80m: CL 20~40° 割れ目が主体。一部の割れ目は消滅しかかっているものもある。割れ目には薄く砂、粘土、マンガンを含むことが多い。	CL'																						
											40.30~40.80m: 高角度割れ目沿いにマンガン濃集が見られる。																							
42			+	花崗斑岩	明褐色	E ₈	V ₈	O ₈	6	2	41.70~41.81m: コアチューブ引上げ時の擾乱で、径5~10mmに塊状化する。	D'																						
											41.90~43.94m: 0 強風化により割れ目沿いの砂状化が拡大。硬質な砂状部と硬さ「D」の径10~20mmの岩片からなる砂塊状を呈する部分が主体。原岩組織や割れ目の一部は残留している。部分的に粘土化部やマンガン染染部も伴う。 42.30m: 45° の割れ目に幅10mmの灰黄色粘土を挟在する。																							
43			+	花崗斑岩	明褐色	E ₈					43.09~43.30m及び43.50~43.71m: 硬さ「D」が中率的に残留している。	D'																						
											43.46~43.55m: 割れ目沿いのマンガン染染が著しい。黒褐色化を呈する。																							
											43.94~45.96m: CL 割れ目沿いに風化で砂状化が進む部分も含む。一部の岩片は硬さ「C」と硬質で残留する。																							
44			+	花崗斑岩	明褐色	E ₈					44.75m: 45° の割れ目沿いに幅20~25mmで緑泥石化変質により灰褐色化する。	CL'																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (試験)					原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN · MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)																																																											
															(N 値 ~ 深度) 図																																																																										
				花崗斑岩	明褐灰			δ			45.10~45.25m: 径さ「C」の硬質岩片が分布。		CL'																																																																												
46																																						45.96~46.31m: 径さ「C」で硬質。割れ目は幅1~3mm程度で砂状化する。																																																			
																																にみい黄褐				ε			46.73~47.50m: D 原岩組織と割れ目は消滅している。径さ「D」主体の径3~10mmの細岩片化している。		D'																																																
47																																																																	46.73~46.85m: 割れ目沿いに砂状化が進み、径さ「E」が主体。 46.90~47.06m: 珪化による二次石英が径1~2mmの斑片状~幅1~2mmの脈状で晶出し、全体が径さ「C」と硬質。																								
																																							明褐灰																									δ			47.50~48.08m: CL 47.85m以浅は径さ「D」主体、47.85m以深は径さ「C」主体で、47.85m以浅は風化で割れ目沿いの一部は砂状化が進み、岩片自身も軟質化している。		CL'																				
48																																																																																									
49																																にみい橙				γ			48.12~48.51m: 60~70°の割れ目が主体。割れ目に砂や粘土の挟在物が分布する。これらの割れ目は上位の破砕部と同方向に並い。 48.51~48.60m: 径質な砂状化を呈する。 48.84~48.88m: 上端20°, 下端38°の割れ目に囲まれ径質な砂状化を呈する。 49.00~49.34m: 割れ目沿いに風化・砂状化が進み、コアチューブ引上げ時に崩され、塊状コアを呈している。密着割れ目も風化してハンマーの打撃で分離し易い。径さ「C」が主体であるが、風化で軟質化した径さ「D」や逆に堅硬な径さ「B」も含む。		CL'																																																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記号	コア採取率 → (%) 最大コア長 ← m R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水圧 等)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)							
															N	値																	
51				花崗斑岩	にんじょう層	IVg			δ		50.44~50.67m: 硬さ「B」で堅硬。上下端は砂状化している。		CL'																				
						Cg	Vg																										
						Bg	IVg																										
						Cg	Vg																										
						Dg	IVg																										
						Cg	IVg										51.15~51.50m: 上下位よりも石英斑晶が径5~15mmと大型化する (上下位側は径5mm前後主体)。																
52				花崗斑岩	にんじょう層					2		51.5m以深は風化が進み、割れ目沿いの砂状化が広がり、径10~30mmの硬さ「D」岩片を含む「砂礫状」を呈する部分もある。																					
							Dg	Vg									51.5m以深は風化が進み、割れ目沿いの砂状化が広がり、径10~30mmの硬さ「D」岩片を含む「砂礫状」を呈する部分もある。																
																	52.18~52.22m: コアチューブ引き上げ部で、細粒湿しり粗粒砂状を呈する。																
																	52.42~52.99m: GM 岩片は硬質であるが、一部に密着度の低い割れ目も含んでいる。割れ目は幅2~3mmで砂状化することが多い。																
																	52.99~53.20m: CL 割れ目沿いに砂状化が進む。消滅しかかっている割れ目が多い。																
																	53.20~53.55m: D 原岩組織は残留するが、割れ目は消滅するか、しかかっているものが多い。硬さ「D」の径10mm程度の岩片が散在している。																
53			花崗斑岩	明褐色					δ		53.55~54.10m: CL 一部で硬さ「C」岩片も含み全体が不均質。長石は大半が白濁化する。																						
						Dg	IVg	cg																									
																54.10~54.72m: D 風化で砂状化が著しい。																	
																54.37~54.46m: 硬さ「D」の岩片が残留する。																	
																54.60m以深は粘土化が進む。																	
																●54.72~54.77m: 破砕部 54.72~54.77m: 粘土質糜状部 (特) 上端40°で波打る。下端35°で直線的に連続。径2~4mmの石英粒と粘土化した径5~10mmの岩片を30~50%含む。軟質。マンガン鑑染を一部に伴う。明褐色を呈する。幅40~50mm。 54.77m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜39°で上下位とも直線的に連続。石英粒。岩片はほとんど含まない (5%以下)。軟質。灰褐色を呈する。幅3mm。 54.77~55.24m: D 全体に粘土化が進む。																	
54			花崗斑岩	明赤灰					3																								

標 尺 (m)	標 高 度 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟 状 態	コ ア 形 状	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コ ア 採 取 率 (%) 最大コ ア長 R Q D [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) 測 定 日 日	標準貫入試験		原 位 直 接 試 験 (孔内水圧感)	室 内 試 験	掘 進 月 日	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) ／ 孔 壁 保 護	コ ア チ ュー ブ ／ ピ エ ッ ト	給 圧 (kN ・ MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)											
														(N値～深度) 図	値																						
		56		花崗斑岩	明赤灰	Eg Wg dg		4		56.00m以深は岩片やマンガン鉱染部を脈状に含む。 56.00m以深は白色粘土化部や赤灰色粘土細脈を多く含む。 56.24~57.70m: CL 硬さ「D」岩片が主体。割れ目沿いに風化が進む部分では硬さ「E」や硬質な砂状部も分布する。割れ目沿いにマンガン鉱染を受け、割れ目面とその周辺は黒褐色化することが多い。		D'																									
		57			灰黄褐	Dg Yg og		3		56.83~57.00m: 割れ目沿いの風化が進み、砂状化する。残留する硬さ「D」の径5~10mmの岩片とともに砂礫状を呈する。 57.00~57.45m: 密着度の低い割れ目が密集し、径10mm程度に粗岩片化する。硬さ「C」の岩片も多く含む。																											
		58			にんい黄褐	Cg		2		57.45~57.70m: 割れ目沿いに砂状化が進み、全体に上位より軟質化が進む。 57.70~57.99m: CL 原岩組織と割れ目は残留するが、全体に風化による砂状化部が拡大し、一部は硬質な砂状部となる。																											
		59			にんい褐	Bg Wg bg				57.99~58.28m: CL 岩片は硬いが、20~30°の割れ目が10~30mm間隔で同方向に発達。マンガン鉱染も伴う。 58.28~58.73m: CM マンガン鉱染で割れ目は黒褐色化するが、砂や粘土などの挟持物は分布しない。																											
		59			灰褐	Dg Yg og				58.73~59.71m: CL 割れ目沿いに砂状化し、密着度の低い割れ目も多い。全体として脆い。																											
		59				Cg Wg bg				59.35~59.54m: 硬さ「C」主体。																											
		59				Dg Yg og				59.71~60.00m: D 強風化で硬質な砂状部主体。径10mm前後の岩片が残留し、砂礫状を呈する。																											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 最大コア長 R Q D [%]	岩級区分	孔内水位 / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																		
															(N 値 ~ 深度) 図	(値)																																													
		61	花崗斑岩	明礫灰	にぶい黄橙	Dg	Vg	dg	δ	2	60.00~60.26m: DL 50~55° の割れ目が主体。割れ目沿いにマンガン染染を受ける。	0 50 100	D'		0 10 20 30 40 50																																														
		62									にぶい橙																				Eg	Vg	dg	δ	3	●60.26~60.69m: 破砕部 (Hj) 60.26~60.59m: 礫質砂状部 (Hj) 上端は28° で、一部消滅しかける直線的な割れ目。下端は18° で波打って連続。径5~10mmの径さ「E」岩片と岩片間の風化で拡大した砂状部からなる。下端側に下位のHc-1の粘土と同方向の細かい割れ目が発達。 機械割れで全体が礫質砂状化している。にぶい黄褐色を呈する。 60.59~60.59m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜18° で上下端とも波打って連続。径1mmの石英粒を約20%含む。軟質。明礫灰色を呈する。径10~12mm。 60.59~60.69m: 粘土混じり砂状部 (Hj) 上端18° で、下端37° の割れ目で見ずれも波打って連続。径5~20mmの径さ「E」岩片と岩片間の粘土化~砂状部からなる。明礫灰色を呈する。 60.69~61.29m: D 大半が風化で砂状化する。	0 50 100	D'		0 10 20 30 40 50																					
		63																																		明礫灰																							Dg	Vg	dg
		64									明礫灰																				Bg	Vg	bg	β	2		●63.75~63.85m: 破砕部 (Hj) 63.75~63.80m: 粘土・砂混じり岩片状部 (Hj) 上端3° で波打つ割れ目。下端46° で波打って連続。径5~10mmの岩片と岩片間の粘土化~砂状部からなる。にぶい橙褐色を呈する。径30~50mm。 63.80~63.85m: 礫質粘土状部 (Hj) 上端46°、下端47° でともに波打って連続。径1~3mmの石英粒。径5~20mmの径さ「D」岩片を20~30%含む。やや硬質。灰褐色を呈する。径20~35mm。 63.85~64.49m: D 径10~20mmの径さ「C」岩片が多く残留している (残留率30~40%程度)。全体に硬質な砂礫状を呈する。粘土状部は砂状部中にわずかに散在する程度。 64.49~65.19m: CH 堅硬・塊状。 64.68~64.73m: 上端45°、下端30° の割れ目に囲まれ、片状~角礫状化する。粘土はなく、わずかな砂状部が分布する。	0 50 100	CH		0 10 20 30 40 50																				
			灰褐																																																										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水圧 含む)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN · MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)										
															(N 値 ~ 深度) 図	(値)																					
							Bg	IIIg	bg	β	65.00~65.17m : 柱状コア (コア長17cm)。																										
							Eg	VIg	dg	ε	65.18~65.36m : D 割れ目沿いに砂状化が拡大し、硬質 な砂状化を呈する。																										
											65.36~68.05m : Cl 岩片は堅硬であるが、割れ目沿いに 砂状化が進むことが多い。粘土化部 や粘土脈は殆んど含まない。上端部 と下端部は短柱状コア主体。中央部 は片状コア主体で一部割れ目沿いに 砂状化が進む。																										
											65.96~66.01m : 砂状化が進んでいる。																										
											66.20~68.01m : 上下位に比べ風化が やや進む。																										
											66.39~66.65m : 割れ目沿いに砂状化 が進む。																										
											66.39~66.44m : コアチューブ引上げ 時に乱され、径10mm前後の岩片状コ アを呈する。																										
											66.65~67.00m : 硬さ「B」の堅硬な 岩片も多く含む。																										
											67.00~67.46m : 落下コア回収のため 岩片状を呈する。																										
											67.48~67.63m : 柱状コア (コア長15 cm)。																										
											67.65~68.05m : 硬さ「D」の岩片主 体で一部割れ目沿いに砂状化する。																										
											●68.07~68.06m : 破砕部 68.02~68.05m : 砂凝じり硬状部 (H) 上端40° で不明瞭に連続。下端41° で直線的に連続。微細な割れ目が発 達し、一部の岩片は下位の粘土と同 方向に定向性を示す。にぶい橙色を 呈する。幅25mm。 68.05~68.06m : 砂凝じり粘土状部 (H-2) 上端41° で直線的に連続。下端30° で波打って連続。上端には径1mmの石 炭粒をごく少量 (5%以下) 含む幅1 ~2mmの淡黄色軟質粘土を伴う。明褐 灰れを呈する。幅10mm。 68.06~68.12m : 粘土凝じり硬状を呈 するが、硬質で岩片間に分布する粘 土脈に系統性がなく、原岩組織が明 瞭に認められる。 68.12~68.39m : 岩片状を呈し、軟質 化が著しい。 68.39~68.38m : GM 堅硬であるが、割れ目がやや多い。 一部で長石が白濁化するが少ない。 挟入物は少ない。 69.30~69.95m : Cl																										
											69.81~69.95m : 割れ目沿いに砂状化 が進み、径10~20mmの岩片を含む砂 状化を呈する。																										
											69.95~71.06m : GM 割れ目には殆んど挟入物は分布しな いが、70.66m・57° と70.70m・60° の割れ目に囲まれて片状化する。前 者の割れ目では面沿いに幅1~2mmで 砂状化する。径0.5~1mmの雲母 (セ リサイト) が晶出している。																										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図		原位置試験 (孔内水圧 含む)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)							
															N 値	(値)																		
				花崗斑岩	灰褐色					β 2	71.06~71.89m : CL 30° と 60~75° の割れ目が交差し、 交差部の一部では幅10~60mmで硬質 な砂状~砂礫状を呈する。粘土化部 も点在するがわずかである。		CM'		0	10																		
											71.88~76.11m : CM 一部で風化による砂状部を幅2~3mm で挟むが、挟在物を伴わない割れ目 が多い。																							CL'
											72.48~72.57m : 割れ目沿いに褐色化 が進むが、硬質で砂状化はない。 72.57~73.16m : 長さ10cm以上の硬質 コア主体。																							
											73.20~75.00m : 20~30° と 60~70° の割れ目が交差し、交差部の一部で 片状~角礫状化するが、砂状部や粘 土状部は伴わない。																							CM'
											74.85~75.00m : 割れ目沿いにマンガン 鉱染を受ける。																							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位(測定月日)	(標準貫入)試験 (N値~深度)図		原位置試験(孔内水圧等)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)																																																																
														N 値	値																																																																											
		76	花崗斑岩	灰褐色	Bk	Vg	bg	β		75.65~75.92m: 内部にゆるい割れ目や密着度の低い割れ目を伴わない長さ27cmのコア。	0 50 100	CM'																																																																														
		77								Vg																		cg	γ	76.11~77.00m: CL 割れ目が交差し径10~20mmに片状~角塊状化する。岩片自身は硬質で劣化はない。一部の割れ目では径2~5mmの細線状に幅10mm以下で砕けているが、砂や粘土は伴わない。全体に長石の白濁化が目立つ。	0 50 100	CL'																																																										
		78								Vg																		bg	β	77.02~79.47m: CM 全区間硬質であるが、77.43~78.00m間では密着度の低い割れ目が多く、ハンマーの打撃で径30mm前後に分縮・細片化し易い。また、同区間では割れ目沿いにマンガン染染を受け、割れ目面の一部は黒褐色化する。 77.21m: 交差する2本の割れ目の一部は、幅2~3mmで砂状化するが、砂状部は割れ目全体に連続しない。																				0 50 100	CM'																																							
		79								Vg																		cg	γ	78.00m以深は長さ10cm前後のコアが主体となるが、一部では密着度の低い割れ目が分布する。 78.40m: 割れ目沿いにマンガン染染を受ける。 79.00m以深では長石閃晶の白濁化が多い。 79.13m: 40°の割れ目沿いに幅10~15mmが淡緑色化し、面沿いに径0.5mm以下の緻細な雲母(セリサイト)が晶出する。 79.47~80.19m: CL 30~50°と70°の割れ目が交差し、交差部の一部は径10mm程度に細片状化する。70°の割れ目の一部に幅2~3mmの淡黄~褐色粘土断を挟む。 79.82~79.90m: 割れ目沿いに砂状~径2~5mmの細片状化が進む。少量の粘土も伴う。																																								0 50 100	CL'																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N 値 ~ 深度) 試験					原位置試験 (孔内水圧 含む)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN · MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)								
															(N 値)	(深度)	(深度)	(深度)	(深度)																			
		81	花崗斑岩	灰褐色			Cg	Vg	cg	γ	80.19~80.48m : CM 一部に密着度の低い割れ目を含む。 割れ目に挟在物は分布しない。		CL'																									
							IVg			80.48~83.12m : CH 堅硬で概ね未風化の岩盤で、割れ目には挟在物は分布しない。ゆる割れ目はなく、密着度の低い割れ目はごく一部に分布する程度。全体に径2~3mmの暗褐色鉱物(磁鉄石)が晶出している。長石の白濁化は殆んど認められない。																												
							Bg	bg	β	81.10~81.25m : 径2~5mmの斑点状にマンガン鉱染を受け、灰褐色を帯びる。劣化は伴わない。	2																											
							IIIg			82.10~82.30m : 柱状変質により径5~10mmの斑点状~幅10mmの脈状の石英が晶出し、上下位よりも硬質となっている。																												
										82.72~82.86m : 密着度の低い割れ目を含む。																												
							Dg	cg	δ	83.12~83.79m : CL 83.46m以深は20~50°の割れ目が多く、割れ目沿いに砂状化が進む。マンガン鉱染も伴う。岩片自身も硬さ「D」に軟質化する。83.46m以深は割れ目は多いが、硬質で挟在物は殆んど分布しない。	3																											
							Vg			83.79~84.43m : CM 堅硬。84.35~84.38m間が10~15°の割れ目沿いにごく薄く風化。砂状化する以外は割れ目に挟在物は分布しない。一部にゆる割れ目が分布するが、密着度が高く、ハンマーの打撃で分離しない。	2																											
							Bg	IVg		84.43~84.61m : CL 硬さ「C」の岩片主体。多くの割れ目はマンガン鉱染で黒褐色化するが、粘土化はない。																												
							Vg	cg	γ	84.61~85.50m : CL 硬さ「D」岩片主体。一部で割れ目沿いに風化。砂状化が進む部分もある。長石の白濁化が目立つ。	3																											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 最大コア長 R Q D [%]	岩級区分	孔内水位 / 測定月日	標準貫入試験		原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)													
															(N 値)	(深度)																							
		86		花崗斑岩	にじい層	Dg	Vg	og			3	85.15m~50' で幅5mmの軟質な灰白色粘土層を挟む。 85.24~85.25m : 砂状化が進む。40°前後の割れ目が残留する。																											
		87				Eg	Vg	dg			3	85.50~85.59m : D 粘土化が進む。 ●85.58~85.76m : 破砕部 85.58~85.63m : 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端40° で直線的に、下端48° で一部不明瞭ながら直線的に連続。径5~10mmの硬さ「D」岩片と岩片間の粘土状部からなる。上端付近に幅5mmの石英脈が下位のHc-2の粘土とほぼ同方向に分布するが途中で消滅する。灰黄色を呈する。幅35mm。 85.63~85.64m : 硬凝じり粘土状部 (Hc-2) 傾斜48° で、上端は一部不明瞭ながら直線的に連続。下端は並打って連続。径2~3mmの石英粒。径5mmの硬さ「D」岩片を10%含む。軟質。淡黄色を呈する。幅5mm。 85.64~85.76m : 粘土・砂混じり岩片状部 (Hj) 上端48° で並打って、下端32° で、幅1~2mmの軟質な灰白色粘土層として直線的に連続。上位のHc-2の粘土と同方向に斜交する割れ目で径5~10mmに岩片化している。岩片間の一部は粘土・砂状化し、幅1mmの灰白色粘土層が分布。85.66m・53' のシャープなせん断面が分布し、これに深部でマンガン鉄染を受け黒褐色化する。淡黄〜にじい褐色を呈する。幅100~120mm。 85.76~87.47m : Cl 86.52m以深は硬さ「D」、86.52m以深は硬さ「G」の岩片主体で、後者では一部に短柱状コアを含む。前者では一部の割れ目沿いが砂状化する。 85.76~86.00m : 径10mmの斑状状や幅2mm、20' の脈状に石英を含む。 87.47~87.90m : Gh 砂粒。長石の一部は白濁化する。一部で付着割れ目を含むが、密着度が高くハンマーの強打で分離しない。 87.90~88.39m : Cl 一部の割れ目沿いは風化で薄く砂状化する。密着度の低い潜着割れ目が多く、ハンマーの打撃で潜着割れ目沿いに分離・細片化し易い。																											
		88				Bg	IIIg				2			●88.38~88.43m : 破砕部 88.38~88.42m : 砂混じり岩片状部 (Hj) 傾斜50° で、上端は直線的な密着割れ目で、下端は直線的に連続。上位のHc-1の粘土と同方向の割れ目が数本と、これらに斜交する割れ目により径5~10mmに岩片化している。粘土は殆んど伴わないが、一部の岩片間では砂状化する。にじい褐色を呈する。幅35mm。 88.42~88.43m : 粘土状部 (Hc-1) 傾斜50° で上下端とも直線的に連続。石英粒。岩片を殆んど含まない。軟質。明黄褐色を呈する。幅5mm。 88.43~88.89m : Cl 20~40° の低角度で直線的な割れ目が多い。一部で砂を挟む。 ●88.88~88.94m : 破砕部 88.88~88.92m : 粘土・砂混じり岩片状部 (Hj) 傾斜30° で、上端は幅0.5mmの軟質な白色粘土層で直線的に、下端も直線的に連続。下位のHc-2の粘土と同方向に細かい割れ目が発達し、径5mmの岩片に細片化している。岩片間は幅1mm以下でごく薄く粘土・砂状化する。にじい黄褐色を呈する。幅25~30mm。 88.92~88.94m : 硬凝じり粘土状部 (Hc-2)																									
		89				Cg	Vg	cg			2																												
						Eg	VIg	dg			3																												
						Cg	Vg	cg			2																												
						Eg	VIg	dg			3																												
						Cg	Vg	cg			2																												
						Eg	VIg	dg			3																												
						Cg	Vg	cg			2																												

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分	標準貫入試験 (N値~深度) 図		掘進月日	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm)	コアチップ/ビット	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																					
															N	値																													
91			花崗斑岩	緑灰	灰色	VI	dg	e		3	90.50m~60° で幅2~3mmの石英脈が分布。	2	0	U'	0	10	20	30	40	50																									
		91.04mと91.20m: 割れ目に幅1mmの軟質な灰白色粘土が脈状に分布。前者ではマンガンを含み、後者では砂を伴っている。																																											
		91.47m以降では残留岩片の割れ目や砂状基質部の一部がマンガン染染を受け、黒褐色化する。																																											
		91.60m以降では径3mmの長石結晶が多くなる。																																											
92			花崗斑岩	緑灰	灰色	VI	dg	e		4	●91.69~91.76m: 破砕部 (Hc-1)	3	0	U'	0	10	20	30	40	50																									
		●91.69~91.70m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜51° で上端は波打って、下端は直線的に連続。径0.5mmの微小な石英脈を約5%含む。軟質。明褐色~灰褐色を呈する。上端部の一部に白色粘土脈とマンガン染染を伴う。幅3~8mm。																																											
		●91.70~91.72m: 硬質粘土状部 (Hc) 上端51° で直線的に、下端53° で波打って連続。径1~3mmの石英脈。径5mm前後の長さ10) 岩片を約20%含む。軟質。灰白色を呈する。幅7~12mm。																																											
		●91.72~91.76m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端53° で波打って、下端45° で直線的に連続。上位のHc-1の粘土と同方向~20° 斜交の細かい割れ目が多く、径5~10mmに岩片化している。岩片間に上位のHc-1の粘土と同方向の幅0.5~1mmの軟質な白色粘土脈が分布する。にぶい褐色を呈する。幅30~40mm。																																											
93			花崗斑岩	緑灰	灰色	VI	dg	e		3	91.76~94.80m: Cl	4	0	U'	0	10	20	30	40	50																									
		91.76~94.80m: Cl 密度度が極めて低い割れ目を多く含む。ハンマーの打撃で径10~30mmの小岩片に分離・細片化する。																																											
		92.09m: 径10mmの緑泥石が30° 割れ目で横断される。低角度の割れ目は別の中角度の割れ目で止められ、かつ両方の割れ目には細粒部を伴わない。割れ目周辺の岩盤に原岩組織が見られ、系統的な割れ目も存在しない。																																											
		92.18m~70° ~92.24m~44° 間は径5~10mmの岩片状に砕け、各割れ目面にマンガンが付着する。																																											
94			花崗斑岩	緑灰	灰色	VI	dg	e		2	92.65m: 55° の割れ目に幅2mmのマンガン脈を伴う。	5	0	U'	0	10	20	30	40	50																									
		93.00m以降はコア長3~5cm主体の短柱状コア、93.00m以降は砂着割れ目も含め、割れ目が密集し、コア長1~2cmの片状コアが主体。また、長石の大半は白濁化し、割れ目沿いに砂状化することがある。マンガンを含み、粘土脈は殆んど分布しない。																																											
		93.81~94.13m: 長さ10) で割れ目に挟在物は分布しない。																																											
		94.26~94.38m: 径5~10mmの大型な石英結晶が点在する。35~50° の割れ目に細粒部は見られない。割れ目周辺の岩盤に原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。																																											
			花崗斑岩	緑灰	灰色	VI	dg	e		2	94.80~97.96m: CH	6	0	U'	0	10	20	30	40	50																									
		94.80~97.96m: CH 全体が緑灰色化する。緻密新鮮であるが、一部の割れ目沿いに風化による褐色化が進む部分もある。挟在物のない割れ目も主体であるが、所々、挟在物が認められる。																																											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 R Q D cm L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図		原位置試験 (孔内水圧 含む)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)												
														N 値	深度																							
		96		花崗斑岩	緑 灰	III g	bg	β		95.46m : 55° の割れ目沿いに幅10~15mmが褐色化し、径さ「D」に軟質化する。上層部に幅7mmの石英を脈状に伴うが、同脈は途中で尖滅している。		CH'																										
		97								Bg																					2	96.60~96.63m : 割れ目沿いに幅10mm程度が淡褐色化し、幅1~2mmの砂状部を挟む。	7	101	CM'			
		98								Wg																					γ	97.36m : 35° 割れ目に淡緑色シルト~細砂脈を挟む。その直下の97.65mまで密着度の低い割れ目が多く分布する。	9	101		CL'		
		99																														Vg	97.96~98.49m : CM 岩片は硬いが、割れ目沿いの砂状化が認められる。粘土化部や粘土脈は少ないが長石の白濁化が多い。	11			111	
										Cg																					δ	3	98.36m : 50° の割れ目に幅2~5mmの灰褐色シルト~粗砂を挟む。 98.49~101.32m : CL 割れ目沿いの砂状化部が多くなる。粘土は殆んど分布しないが、長石は概ね白濁化する。99.44m以後は岩片は硬質、以環は風化で軟質化している。					
										Bg																					γ	2	98.16~99.45m : 長さ10cm前後の柱状コアが中石的に分布する。					
																																	99.44~99.80m : 割れ目沿いに風化・砂状化し、岩片自身も上下位に比べ軟質化する。特に99.76~99.90mでは40° の割れ目沿いに砂状化が進み、一部の岩片は径さ「D」となる。					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 R Q D [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
															(N 値)	(図)															
				花崗斑岩	緑灰	Bg		β	2																						
						Vg	og				100.52~101.32m: 割れ目沿いの風化、砂状化が進む。岩片も散質化し、硬さ「C」主体で部分的に硬さ「B」が残る。長石は白濁化する。																				
						Cg		δ		3	100.84~100.89m, 101.23~101.32m: 割れ目沿いに砂状化が拡大。径5~10mmの岩片と共に砂礫状を呈する。																				
						Bg	Wg	bg		β		101.32~102.05m: CM 硬は未風化で、挟在物は分布しない。一部に密着度の低い割れ目が分布している。																			
						Cg		og		2	102.05~104.65m: CL 103.70m以深では硬さ「B」主体で硬さ「C」「D」も分布。103.70m以深では硬さ「D」で散質化が進んでいる。102.05~102.41m: 約10mm間隔で細かく密着度の低い潜在割れ目が多い。																				
						Bg		bg		γ	102.41~102.94m: 硬さ「B」の岩片主体。割れ目沿いに幅1~3mm程度で薄く砂状化する。粘土化層は分布しない。																				
						Dg		δ		3	102.94~103.17m: 20~30°の割れ目沿いに風化、砂状化が広がっている。岩片自身も硬さ「D」で散質化する。																				
						Bg	Vg	β		2	103.17~103.70m: 割れ目沿いの砂状化や挟在物は認められないが、一部で密着度の低い潜在割れ目が多い。																				
							og				103.70~104.65m: 風化が進み、岩片も含め、全体が散質化している。所々に幅1~3mmの散質な白色粘土層状に挟む。																				
							Dg		γ	3	104.65~107.15m: CM 105.14~105.19m間を除き、硬質で挟在物は殆んど分布しない。																				
				Bg	Wg	bg		β	2																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N 値 ~ 深度) 図					室内試験 (孔内水圧 考慮)	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																																									
														N	(値)	0	10	20																																																																																			
		106	[花崗斑岩]		灰褐色	Bg	Vg	bg	β 2	<p>105.14~105.19m: 上下端とも40°の割れ目に開かれて、硬質な砂状~径2~3mmに細片化する。下端面に白色粘土がフィルム状に付着。区内全体に径0.5mm以下の微細な黄鉄鉱が点在する。</p> <p>105.70~105.83m, 106.68~106.72m: 割れ目が交差し、径10~20mmに岩片化する。各割れ目は砂や粘土が付着していないほほ未風化な面をもつ。</p> <p>106.21~106.81m: ゆずり割れ目が多くハンマーの強打でも分離・細片化しない。密着度の低いものは開口割れ目化している。</p>		CM'																																																																																									
	107	<p>107.15~107.62m: CL 割れ目沿いに径3~5mmに細片化する部分があるが、割れ目に砂状~粘土状の挟在物を分布せず。ほほ未風化な面をもつ。面の一部は緑泥石化変質により淡緑色化するが、粘土は伴わない。</p> <p>107.62~115.99m: CM 岩片は硬いが、割れ目が多い。110.10~114.00m間は10~20mm程度の間隔で密着度の低い隙間割れ目も含まれている。ほほ未風化で、割れ目に挟在物は殆んど分布しない。108.00~110.10m間は、30~50°の割れ目が主体で、一部は交差して岩片状を呈する。</p> <p>108.57~108.60m: 40°の割れ目沿いに幅1mm程度砂状化する。上端面には暗褐色砂がフィルム状に付着。微細な黄鉄鉱を伴っている。</p>								CL'																																																																																											
	108																																																																	CM'																																			
	109																																																																																																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水圧 含む)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN · MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)					
															N 値	0	10	20	30												40	50			
			+								110.40~110.51m: 白色化したゆず割れ目沿いに分離し、開口割れ目化している。	9 (0) 000																							
			+								111.37m: 75~80° の割れ目沿いの一部で幅1~2mm砂状化。これに交差する30° の割れ目は止められている。 砂状化部の分布は途切れており、連続性に乏しい。高角度割れ目周辺の岩盤に原岩組織が見られる。	11 (11) 000																							
			+								112.41~112.44m: 5° 前後の割れ目沿いに片状化するが、岩片は軟質化しない。	4 (0) 000	4M'																						
			+								113.58~113.60m: 傾斜25°、幅4cmのアプライト脈を挟む。花崗斑岩との境界は明瞭でゆず割れ目化している。 113.63~113.81m: 白色の潜在割れ目が5~10cm間隔で細かく分布。密着度の低いものも含む。	9 (0) 000																							
			+								114.37~115.70m: 緑色化している。	9 (0) 000																							
			+								114.65m: 80~85° の割れ目の一部に磁鉄と幅0.5mm以下の暗緑色粘土がフェイルム状に付着。割れ目は湾曲して凹凸しているが、割れ目のかみ合わせは良い。割れ目周辺の岩盤に原岩組織が見られ、系統的な割れ目も存在しない。	9 (0) 000																							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 / 測定月日	標準貫入 試験		原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN · MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L / 分)	排 水 量 (L / 分)				
														(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)															
					緑 灰	Bg	Vg	bg		115.33~115.70m: 暗緑色鉱物 (緑泥石) が径1~2mmの斑点状~幅1mmの脈状で分布する。特に前者が多い。		GM'																		
					にみい権					115.70~116.40m: ベグマタイト。径1~10cm程度の橙色のかり長石。灰白色の長石。石英が多く晶出し。全体の色調が橙色を呈する。																				
					花崗斑岩	Cg	Vg	cg		115.99~116.49m: CL 割れ目が細かく分布し。径10~30mm主体に岩片化している。割れ目沿いの多くは幅1~3mmで砂状~細片状化する。116.18~116.37mでは石英の晶出が多く。全体が珪質となる。		CL'																		
					灰 緑	Bg	Vg	bg		116.49~119.47m: GM 挟在物のない割れ目が多いが、一部で幅1~2mmで砂状化部や粘土部を挟む割れ目も分布する。また、割れ目交差部の一部では径5~10mm程度に細片状化する部分もある。																				
										117.21m: 70° の割れ目に幅2mmで硬質な暗緑色鉱物 (緑泥石) が断続的に分布する。その上端部約10cmは弱く風化し淡褐色化するが劣化は伴わない。																				
						Bg	Vg	bg		118.12~119.10m: 30° 前後と70~80° の割れ目が交差し。一部では径5~10mm程度で片状化している。砂状化や粘土化は伴わない。 118.23~118.53m: 20~30° の砂着割れ目が10~20mm程度で同方向に分布。一部では密着度が低く開口割れ目化している。		GM'																		
										119.00~120.79m: アブライト 花崗斑岩との境界は漸移的である。																				
					アムナイト 明緑 灰	Cg	Vg	cg	γ	119.47m: 40° の割れ目に幅1mmの暗緑色粘土脈 (緑泥石) を挟む。径0.5mm以下の微細な黄鉄鉱を伴う。 119.47~120.00m: CL 30~40° の割れ目がほぼ同方向に1~3cm間隔で分布する。割れ目沿いに薄く砂状化するものが多い。 119.75~119.89m: 幅1mm以下の緑灰~灰白色粘土を脈状に挟むことが多い。		CL'																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	試験		原位置試験 (孔内水圧)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)										
															(N 値)	(図)																				
		65.30 120.79		アブライト 花崗斑岩 灰褐	Bg Ilg Bg Ilg Cg Ilg Bg Yg Bg Ilg	IVg IVg IVg IVg IVg IVg IVg IVg IVg IVg	bg β β β β β β β β β	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	<p>120.00~120.63m: 堅硬 30~50°の割れ目がほぼ同方向に分布する。白い筋状の付着割れ目が多いが周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離しない。一部で開口化している。割れ目に挟在物は分布しない。</p> <p>●120.63~120.65m: 磁鉄部 (H) 120.63~120.65m: 粘土質磁鉄部 (H) 上端12~32°で湾曲して、下端32°で直線的に連続。径2~3mmの石英粒、径3~10mmの岩片を計20%程度含む。やや軟質。オリーブ灰色を呈する。幅1~2cm。</p> <p>120.65m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜32°で上下部とも直線的に連続。石英粒、岩片を殆んど含まない。軟質。オリーブ灰色を呈する。幅1~3cm。</p> <p>120.65~121.03m: CM 堅硬。やや割れ目が多いが挟在物は分布しない。上端傾斜は緑泥石化により緑灰色を呈する。劣化はない。白い筋状の付着割れ目は周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離しない。</p> <p>121.03~122.23m: CH 堅硬。割れ目が少なく、柱状~長柱状 (コア長20cm以上) コアからなる。径1~3mmの暗緑灰色の緑泥石斑点が多く、全体に緑灰色を帯びる。</p> <p>122.23~122.42m: CL 上位より風化がやや進み、岩芯や割れ目の一部が褐色化する。白い筋状の付着割れ目もハンマーの打撃で分離・細片化し易いものが多い。</p> <p>122.30~122.89m: 高角度割れ目が連続する。</p> <p>122.42~122.97m: CM 堅硬であるが、一部でハンマーの打撃で分離し易い付着割れ目も含む。割れ目は薄く褐色化するが、挟在物は分布しない。径5~10mmの棕色の有力長石の斑点が点在し、白濁化した長石は殆んど分布しない。</p> <p>122.97~123.41m: CL 堅硬。風化や変質による劣化はないが、割れ目が多く、60~70°の割れ目が同方向に1~5cm間隔で分布する。割れ目に挟在物は殆んど分布しない。</p> <p>123.41~125.30m: CM 一部で密着度の低い割れ目や潜在割れ目が分布し、ハンマーの強打で分離・細片化するものがある。ほぼ未風化・未変質で長石の白濁化は認められない。全体に径1~2mmの暗緑灰色の緑泥石を斑点状に含み全体に緑灰色を帯びる。</p> <p>124.30m付近は、コアチューブ引上げ時の擾乱によりコアが片状化する。</p> <p>124.90~129.59m: アブライト 花崗斑岩との境界は漸移的である。</p>																										
		66.21 124.90		アブライト 花崗斑岩 灰褐	Bg Ilg Bg Ilg Cg Ilg Bg Yg Bg Ilg	IVg IVg IVg IVg IVg IVg IVg IVg IVg IVg	bg β β β β β β β β β	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	<p>124.90~129.59m: アブライト 花崗斑岩との境界は漸移的である。</p>																										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%)	岩級区分	標準貫入試験 (N 値 ~ 深度) 図		室内試験 (孔内水圧 含む)	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	給圧 (kN · MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)							
														(N 値)	(図)																
126				灰補	Bg Wg						125.00~125.39m: 白い筋状のゆる割れ目が多いが、周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離しない。																				
				灰補	Cg Yg	bg β						125.38~125.70m: CL 密着度が極めて低い割れ目やゆる割れ目が10mm程度の間隔で分布。ハンマーの強打で分離・細片化する。開口化するものも多い。																			
				にみい層	Cg Yg	cg γ						125.38m: 50° の割れ目沿いが幅10mmで径3~5mmの硬質細片状を呈する。粘土や砂は伴わない。																			
				灰補	Bg Wg							125.70~126.25m: CM 一部で密着度が低い割れ目やゆる割れ目を含む。割れ目に挟存物は分布しない。																			
127				にみい層	Cg Yg	cg γ						126.25~127.41m: CL 一部で50~60° の割れ目沿いに径5mm前後で細片化~砂状化する。また、幅1~2mmの極灰~灰白色の軟質粘土も挟む。硬さ「C」の岩片主体部は灰褐色で残留し、細片化~砂状化部はにみい褐色で、全体では後者の色調が主体。127.00m以深は挟存物は分布しない。																			
				灰補	Eg Wg	dg ε	3					●127.41~127.49m: 破砕部 (Hc-1) 傾斜50° で上下部とも直線的に連続。石英結晶、岩片を含まない。軟質。灰白色を呈する。幅0.5~1mm。																			
				灰補	Cg Yg	cg γ	2					127.41~127.49m: 粘土湿り砂状部 (Hj) 上端50° で直線的。下端50~66° で強曲して連続。径3~5mmに細片化した岩片からなり、岩片間には幅1~2mmの軟質粘土が脈状に分布。岩片は硬さ「D」主体で硬さ「E」も少量含む。																			
				灰補	Cg Yg	cg γ	2					127.47m以上位のHc-1の粘土と同方向のせん断面沿いにマンガン滲染を伴う。にみい黄褐色を呈する。幅40~45mm。																			
				灰赤	Eg Wg	dg ε	3					127.48~128.87m: CL 40~60° の割れ目が主体で、一部で幅1mm以下の風化砂状部を挟む。粘土は挟まない。																			
				明補灰	Cg Yg	cg γ	2					127.82~127.83m: 上端60°、下端61° の割れ目に囲まれ、径2~3mmの細片を含む硬質な砂状部~粗粒砂状部を呈する。砂状部中の細片に定向配列は見られない。粘土は伴わない。割れ目周囲の岩質に原岩細が見られる。下位の別方向の割れ目にもマンガン汚染した面が見られる。																			
129			花崗斑岩	Bg Wg	bg γ						●128.82~128.91m: 破砕部 (Hj) 128.82~128.87m: 砂湿り岩片状部 (Hj) 上端30° で幅1~2mmの軟質な緑灰色粘土脈を伴い、下端63° でいずれも直線的に連続。下位のHc-2の粘土に平行~斜交する割れ目と、これに60~90° で斜~直交する割れ目が多く、径3~10mmに岩片化している。岩片間が薄く砂状化する。粘土化は少ない。灰白色を呈する。幅50~90mm。																				
			アフライト	Bg Wg	bg γ						128.87~128.88m: 硬湿り粘土状部 (Hc-2) 傾斜63° で上下部とも直線的に連続。径1~3mmの石英結晶と岩片を20%程度含む。軟質。暗褐色を呈する。幅3~5mm。																				
			アフライト	Bg Wg	bg γ						128.88~128.97m: 粘土・砂湿り岩片状部 (Hj) 上端63°、下端62° でともに直線的に連続。下部は幅2mmの硬質な白色基物脈と接する。60~70° と10~30° の割れ目が多く、径5~15mmに岩片化する。岩片間に緑色の粘土細脈や薄く砂状化する。灰白色を呈する。幅60mm。																				
			アフライト	Bg Wg	bg γ						128.97~129.95m: CL 129.11~129.26m: 風化が進み、割れ目沿いに砂状~細片状化する。マンガン汚染が見られる。																				
			アフライト	Bg Wg	bg γ						129.95~130.22m: アフライト 花崗斑岩との境界は漸移的である。																				
			アフライト	Bg Wg	bg γ						129.95~130.79m: CM 下部の一部で割れ目沿いに幅1~3mmの砂を挟むが、これ以外に挟存物は分布しない。																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 R Q D cm L [%]	岩級区分	孔内水位(測定月日)	(標準貫入)試験 (N値~深度)図					原位置試験(孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コブチューブ/ビット	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)									
															N	値	0	10	20											30	40	50						
		71.97	130.22	アブライト	明褐灰	Bg	Wg	Bg	γ		130.58m: 80° とこれと交差する40~50°の割れ目治いで幅1~2mmの風化砂を挟む。粘土は伴わない。また、80°の割れ目は交差する一部の割れ目止めている場合と横断する場合があります。割れ目周囲の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 130.79~131.95m: CL 割れ目治いで風化が進み砂状化することが多い。また、部分的に幅1mm以下の淡緑灰~灰白色粘土細脈を伴う。		GM'																									
		73.08	131.79	花崗斑岩 にこい黄緑	明褐灰	Bg	Wg	Bg	γ		131.79m: 55°の割れ目上端側は幅10~15mmで砂状化する。灰白色粘土細脈も伴う。 131.79~134.23m: アブライト 上端は55°の割れ目、下端は破砕部となっている。 131.95~132.89m: D 風化で球状な砂状化が拡大し、径5~20mmの岩片を含む砂礫状を呈する。砂礫中には灰白色主体の粘土化部が幅1~2mmの細脈として分布。 131.95~132.18mと132.32~132.41mは硬さ「C」の岩片のみ採取され、風化砂状部は崩壊時に流失したものと推定される。 132.41~132.60m: 硬さ「C」の岩片状コア。		CL'																									
		74.80	134.23	アブライト	明褐灰	Bg	Wg	Bg	γ		132.88~133.24m: CL 一部の割れ目治いで幅1~2mm程度で砂状化の砂を挟む。 133.15~133.24m: 一部で砂状化が拡大している。 133.24~133.49m: D 砂状化が拡大し、硬質な砂状~砂礫状を呈する。変質は弱い。 133.49~133.75m: CL 20~30°と60~70°の割れ目が交差し、割れ目が多くなる。		D'																									
		74.80	134.23	花崗斑岩	緑灰	Dg	Wg	Dg	δ		●133.75~133.92m: 破砕部 133.75m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜45°で上下端とも直線的に連続。石英粒や岩片を含まない。軟質。明緑灰色を呈する。幅0.5~1mm。 133.75~133.80m: 粘土質砂状部 (Hb) 上端45°で直線的に、下端35°で波打って連続。粘土化した硬さ「E」や硬さ「D」の岩片を20~30%含む。空や軟質。硬さ「D」岩片中には直線的なせん断面と同方向の割れ目が分布する。緑灰色を呈する。幅30~40mm。 133.80~133.92m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端35°、下端50°でともに波打って連続。大半が粘土化した径5~10mmの岩片で、岩片間は幅1~2mmの灰白~緑灰色軟質粘土が脈状に分布する。上端側が暗オリーブ灰色。下端側がオリーブ灰色を呈する。幅100mm。 133.92~134.15m: 硬さ「D」主体。		CL'																									
		74.80	134.23	花崗斑岩	明褐灰	Bg	Wg	Bg	γ		●134.15~134.23m: 破砕部 134.15~134.19m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜65°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない。軟質。下端側に径0.5mm以下の黄鉄鉱が点在する。上端側はオリーブ灰色。中央部は明オリーブ灰色。下端側は暗オリーブ灰色で、3色の脈状を呈する。幅20mm。 134.19~134.23m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端65°で直線的に、下端はコアが砕けているため不明 (50°の可能性あり)。径5~20mmの岩片状に砕け、その割れ目には緑灰色粘土が付着する。オリーブ灰色を呈する。幅30mm以上。 134.23~134.77m: CL アブライト下層境界の直下部である。割れ目はやや多いが変化は伴わない。 134.23~134.33m: アブライトと花崗斑岩が混在した岩相を呈する。緑灰色を呈する。 134.77~135.34m: D 土砂状~径10mmの細岩片状部が主体。		D'																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記事	コア採取率 (%)			岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N 値 ~ 深度) 試験 (N 値)					原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																				
												←	→	on			R	Q	D	□	[%]												0	10	20	30	40	50														
							Eg	δ	3		135.34~145.65m: CL 硬さ「G」を主体とした割れ目発達部。硬さ「B」は135.34~136.50mに小さく分布。一部で密着度の低い潜在割れ目を含む。 136.50~136.64m: 137.44~137.60m, 139.87~140.04m間は、コア長15cm前後で、割れ目治いに風化が広がりに径5~10mmの岩片を含む砂礫状を呈し、硬さ「EJ」となる。		0	50	100																																					
136				花崗斑岩	明礫灰		Vs	cg			136.40m以深は径2~3mmの暗緑灰色の緑泥石斑点が点在する。 136.54m: 35° で幅10~15mmのアブライトが径5mm前後で砕けて分布。両隣界部も含め粘土は伴わない。		0	50	100																																					
							Eg	δ	3		137.44~137.53m: 径5~10mmの細礫主体。連続する細礫部は伴わない。 137.53~137.60m: 硬質な砂状部を含む。 137.68m以浅はカリ長石が多く、褐色を帯びる。 137.68m以深は緑泥石を多く含む淡緑灰色を帯びる。 137.82~137.97m: 弱い変質を受け、やや軟質な砂~細礫状を呈する。 138.00~138.30m: 割れ目の一部は砂状化し、幅1~2mmの灰白色粘土を脈状に伴うことがある。		0	50	100																																					
137							Vs	cg	γ	2			0	50	100																																					
							Eg	δ	3		138.40~139.20m: アブライト上下端とも割れ目で花崗斑岩と境される。 138.75m: 80° の割れ目に幅1mmの方解石脈を挟む。		0	50	100																																					
138		77.75	138.40	アブライト	褐灰		Vs	cg	γ	2			0	50	100																																					
							Eg	δ	3		139.67m: 75° の割れ目の一部が幅5mm程度砂状化する。 139.87~140.04m: 30° と80° の割れ目が細かく交差し、径5~10mmの細礫状~粗粒砂状に砕ける。粘土は殆んど伴わない。		0	50	100																																					
				花崗斑岩			Vs	cg	γ	2			0	50	100																																					
							Eg	δ	3				0	50	100																																					
							Vs	cg	γ	2			0	50	100																																					
							Eg	δ	3				0	50	100																																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図		原位置試験 (孔内水圧 含む)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)		
														N 値	深度													
				花崗斑岩						140.04~145.65m: 幅10cmを超える砂礫状の風化部は分布しないが、割れ目沿いに幅1~5mm程度で径1~2mmに砂状~片状化する割れ目を多く含む。割れ目は密着度の低い潛在割れ目が開口化したものが多い。粘土を伴う割れ目はわずかである。																		
		79.84 / 141.35		アブラライト		Vg				141.10~141.18m: 40° の割れ目沿いに砂状化する。径5~10mmの硬質岩片 (硬さ「C」) も多く残留している。 141.35~141.96m: アブライト 上下端とも機械割れのため不明。																		
		80.27 / 141.96		褐灰		Cg	og	γ	2	141.96~142.23m: 互いにほぼ直交する60° と30° の割れ目が細かく交差し、径5~10mm主体に細片化する。岩片自身は硬さ「C」と硬質で一部幅1~2mm程度で砂状化する。粘土は伴わない。																		
				花崗斑岩						142.91~144.90m: 割れ目間隔は上下位に比べやや広くなるが、密着度の低い割れ目やゆるぎ割れ目を多く含む。																		
										143.57~143.70m: 上端60°、下端70° の割れ目沿いには緑泥石化が強く、褐灰色を呈する。粘土は殆んど伴わないが、径0.5mm以下の微細な黄鉄鉱と60° で幅5~10mmの石英を脈状に伴う。																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 / 測定月日	標準貫入試験 (N 値 ~ 深度) 図				室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)									
															(N 値)	(貫入)	(深度)	(試験)																			
		146	花崗斑岩	褐灰	Eg	Dg	Y	2			145.65~148.26m : D 大半が割れ目沿いに風化が拡大し、硬質な砂状を呈し、径5~20mmで残留する岩片も含め、砂礫状~礫質砂状を呈する。一部で灰白~暗緑灰色粘土が脈状に分布する。	0																									
		147																														明褐灰	Eg	Dg	Y	2	
		148		Eg	Dg	Y	3			147.50~147.82m : 上下端55°の割れ目の間は、一部砂状化を呈する。	0																										
		149																														Eg	Dg	Y	3		
				Eg	Dg	Y	3			148.26~149.19m : CL 上端55°, 下端50°のほぼ同方向の割れ目で囲まれる。	0																										
																																Eg	Dg	Y	3		
				Eg	Dg	Y	3			148.84m以下、割れ目沿いに幅1~2mmで砂状化する部分がある。	0																										
																																Eg	Dg	Y	3		
				Eg	Dg	Y	3			149.67~152.10m : CL 硬さ「G」と「D」の岩片からなる。	0																										
																																Eg	Dg	Y	3		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 R Q D cm ↓ [%]	岩級区分	孔内水位 / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図					室内試験 (孔内水圧 含む)	掘進 月 日	掘進 速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN · MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L / 分)	排 水 量 (L / 分)											
															N	値	0	10	20											30	40	50								
151				褐灰	Cg	bg					150.22~150.52m: 上下よりも変質し硬さ「D」に軟質化している。下端の150.52mは48°で幅1~2mmの砂~シルト状の緑泥石脈や微細な黄鉄鉱を伴う。 150.52~152.10m: 硬さCで、一部で割れ目沿いに弱く風化するが、割れ目に挟存物は殆んど分布しない。 150.52m以下は径1~3mmの暗褐色樹点が点在したり、割れ目の面が暗褐色化するなど緑泥石化が認められるが、粘土化などの劣化はない。 151.40~151.89m: 割れ目が密集し、径10mm程度の岩片を呈する。割れ目の面の大半に挟存物は付着しない。																													
152				花崗斑岩	明褐灰	Eg	dg	3	4			●152.10~152.15m: 破砕部 152.10~152.11m: 粘土混じり塊状部 (Hj) 上端45°、下端68°でいずれも直線的に連続。下位のHc-2の粘土と相交する割れ目が多く、径5~10mmに硬さ「D」で岩片化している。にぶい棕色を呈する。幅15mm。 152.11m: 塊凝り粘土状部 (Hc-2) 傾斜68°で上下端とも直線的に連続。径1~2mmの石英粒、岩片を約20%含む。軟質。暗褐色を呈する。幅1mm。 152.11~152.15m: 砂・粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端68°で直線的に、下端55°で波打って連続。径3~5mmの岩片主体 (一部径10mm)。岩片間は砂状化~粘土化する。緑灰~明褐色を呈する。幅20~50mm。 152.15~153.59m: CL 風化で全体が硬さ「C」で、割れ目が多く、152.51m以下では30~50°程度の互いに交差する割れ目で径10~20mm程度の岩片が主体。割れ目の一部に砂を埋め込む。 153.32~153.43m: 緑泥石化が顕著、一部の割れ目~岩芯は暗褐色化する。 153.59~154.53m: D 風化で割れ目沿いに砂状化が拡大。岩片沿いの割れ目は残存する。 153.60~153.76m: 緑泥石化が著しい。粘土化は伴わないが、赤褐色の褐鉄鉱や径0.1mmのセリサイトを伴う。 154.00m以下は硬さ「C」「D」の岩片と径質な砂状部からなり砂塊状を呈する。																												
153				明褐灰	Cg	γ	2					●154.53~154.71m: 破砕部 154.53~154.58m: 粘土質塊状部 (Hb) 上端63°、下端36°でいずれも波打って連続。径2~3mmの石英粒、径3~10mmの粘土化~硬さ「D」岩片を20~30%含む。やや軟質。中央の暗褐色粘土は軟質である。上端は明褐色、中央部は暗褐色、下端は灰褐色で塊状を呈する。幅40~50mm。 154.58m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜36°で上端は波打って、下端は直線的に連続。径1~2mmの石英粒をわずかに(5%以内)に含む。軟質。上下端部が暗褐色、中央部が灰褐色で塊状を呈する。幅5mm。 154.59~154.71m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端は36°で直線的、下端は65~70°で湾曲しながら連続。50~70°とこれに斜交する割れ目が多く、径3~5mmに細かく片状化する。岩片間には径1~3mmの明褐色~灰褐色の軟質粘土脈が、また、わずかに幅1mmの軟質灰白色粘土脈が分布する。にぶい橙~明褐色を呈する。 154.71~155.00m: D 軟質化が著しいが、割れ目は残存する。																												
154				暗緑灰	明褐灰	Eg	dg	4	3																															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 ← R Q D [%]	岩級区分	孔内水位 / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 送 水 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)						
															(N 値)	(貫入) 図																	
		93.03	160.00								155.00~160.00m: GL 割れ目沿いは暗緑灰色の緑泥石化が進む。特に、157.89~160.00mでは緑泥石化が著しく緑灰色を呈し、幅2~20mmで砂~シルト状化する部分も認められる。																						
					明緑灰						155.89m: 68° の割れ目に幅2~8mmの緑泥石脈を挟在する。																						
					灰褐色						156.25m: 75~80° で幅7~8mmが径2~3mmに細片化し、岩片間に緑泥石化~シルト状部を伴う。																						
					花崗斑岩						156.72m: 75~80° で幅1~10mmの緑泥質砂状部が径1~2mmの花崗斑岩の扁平礫状部を挟んで上下方向に連続する。下部は158.24mで、下部面には鉄屑と緑泥石粘土フィルムが付着する。156.6mには高角度割れ目とほぼ直交する割れ目が見られる。同様な緑灰色の礫部は様々な方向の割れ目を充填している。																						
					緑灰						158.00~158.20m: 径5~10mmの礫状部と緑質な砂状部からなり、砂礫状を呈する。																						
											159.06~159.33m: 割れ目沿いに暗緑灰色砂状~シルト状の緑泥石が幅2~20mmで分布する。160.00mにかけて岩芯まで暗緑灰色化する。																						
											159.78m: 70~80° で幅1~10mmの方解石脈が感給しながら連続する。																						

孔番 : H27-B-2

深度 0.00m ~18.00m

